

硫化鉍輸送確保に關する件

(昭和二三、三、一商工省)

一 硫化鉍は福安、過渡期肥料の基礎原料であり、其供給過剰が肥料増産の重大隘路となりつゝ、ある状況に鑑みて先に商工省は硫化鉍増産推進本部を設置して之が増産に努力を傾注しつゝ、あり、特に去る九月より二月間の増産増進期間に於ては同係官庁の協力を得て優秀なる成績を擧ぐることを得た。

二 然るに最近に至り鉍山の増産傾向にも不協時に東北地区の輸送は不振となり山元貯鉍を重要増産の支障となし、此の増産意欲に對する重大なる支障となりつゝあるのみならず肥料工場の硫化鉍牛持を減少せしめ(別紙三)肥料生産に對する危機をも誘致しつゝある。

三 又、此の時期前後は特種輸送の外に新炭等の東支輸送と競合するものも危惧されるが此の期間に於ける肥料生産計画は食糧対策と密接不可分の関係にあり、即ち春肥窒素肥料及び五貫五百の公約を基礎とする肥料生産計画であるが此の計画を破るとは食糧対策にヒビを入ること、つまりから之に照應する硫化鉍輸送計画は冬期と最も純粋に確保し得るべきものである。(別紙三)

(備考) 本項の輸送を確保するに必要とする輸送力及びその計画は、

別表(二) 肥料工場十一月現在硫酸銨石在座言因

會社工場	在座	一月費	持費	會社工場	在座	一月費	持費
東洋和肥工川崎	2992	75	78	富士製薬尼崎	520	30	17
日東化学横浜	463	80	6	東洋化成横浜	118	23	5
中川	190	55	3	南産化学磐	5	16	0.3
日産化学小松川	100	57	2	古河化学大塚	54	45	1
王子	3049	130	23	計	2580	306	9
日本钢管管坂	362	28	13	中野地巴	1789	280	7
日本鋼管日中	550	62	9	神戶興産	708	110	6
日本化学中二	329	20	16	神島化学	544	38	14
深沼化学大島	448	10	44	日産化学小田	248	20	12
旭川	106	14	7	日東破常下関	356	20	18
計	8589	531	16	日新化学田山	75	35	2
三井肥料	311	45	7	三井化学山形島	320	498	8
日産化学市川	149	28	5	計	57862	2846	20
東洋化学大阪	1012	61	15	全			
中川工大坂	260	18	14	合計			
多本製肥所	151	40	4				

裏面白紙

(春肥用) 硫化鉍輸送(十二月並一月~三月)
 要 確 保 の 説 明 商 工 有 化 学 肥 料 部
 (22.11.28)

1. 春肥配給計画

硫酸 948,400 万 (稲作及苜 500 万の窒素肥料) の基礎と爲す
 過燐酸 581,400 万 2 万 600 万の燐酸肥料

2. 春肥供給計画

以上の配給計画は次の基礎によつて作られた

(1) 輸入見込量	186,800 万	過燐酸
(2) 肥料上の繰越量	246,600 万	
(3) 生産(1~7月)	515,000 万	
計	948,400	

1~7月生産計画

硫酸	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	計
	66,000	66,000	77,000	89,000	95,000	95,000	95,000	583,000
過燐酸	75,000	70,000	90,000	95,000	100,000	100,000	100,000	630,000

註(1) 硫酸過燐酸は共に4~7月に於て其の設備と増産とに力を入れ、7月に於ては生産に力を入れ、12月並1~3月に生産を減らすこととを考慮してある。

(2) 秋肥の繰越量は12月の生産計画より硫酸69,000万及過燐酸73,000万が基礎と成つてゐる。

従つて

3. 硫化鉍の確保量

需要量	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
	905,000	900,000	88,000	104,000	114,300	121,300	121,300	121,300
輸送計画量	104,100	103,500	101,200	119,500	125,700	133,400	133,400	133,400
								計 850,700 (97%)
								計 954,300

上記註(1)に基き、12月並1~3月の各期輸送計画は絶対的不足を認めておらず、

結論

硫化鉍の輸送が完遂されぬ場合は現在政府が特に食糧政策として公約した反響窒素肥料硫酸500万噸配給の履行を破るに及ぶ政策上の矛盾を惹起するであろう。

裏面白紙